The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	語文　第84・85輯　編集後記/奥付
Author(s)	
Citation	語文, 84-85
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/69066
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

編集後記

後藤昭雄教授の御退休を記念し、『語文』第八十四輯・第八十五輯の合併号として、日本文学特輯号をお送り致します。

後藤教授は、教養部、文学部・文学研究科を通じて、二十三年の長きに渉り、大阪大学に在職なさいました。その間の国語国文学会への御貢献の甚大さにつきましては、ことあらためて申すまでもありません。

後藤教授の学問の拡がりと深みの一端は、本誌所載の「後藤昭雄教授略歴・編著書論文目録」によって御存知いただけますが、その柱の一つに、平安文学を中心として、日本文学の中に於ける漢文学の中心的意義を、精緻な実証的研究の具現として解き明かすことがあるでしょう。そうした御研究は、時代やジャンルにとどまらず、多くの研究者に影響と刺激を与え続けています。

本特輯号所載の十一篇の論文は、後藤教授に親炙し、また薫陶を受けた学生、卒業生、そして同僚によって執筆されたものですが、古代から近世まで、漢文学を軸に日本文学を捉えた論考を中心に、比較文化史的な視点が多彩に盛り込まれた考察を揃えることが出来ました。そのことが、後藤教授の学問の展開をも併せ表象しているとすれば、編集にあたったものとしてこれ以上の幸せはありません。

私事に渉りますが、私は教養部最後の二年間を先生の膝下に過ごすことが出来ました。それから十数年、大学は留まることのない変動に身を任せ、またこれからも大きな波が文学部・文学研究科を襲うことでしょう。しかし、先生はいつも変わらず、厳格な訓詁の学を貫いてこられました。近くして届かないその学問の極みを羨望しつつ、先生をお送りするとともに、世相の激動の中で、日本文学・国語学の燈火を更に輝かせるために、会員の皆様のこれまでにも増してのご協力を仰ぎ願って、編集の後記に替えたいと存じます。

（荒木　浩）

語文　第八十四・八十五輯

平成十八（二〇〇六）年二月二十五日　印刷
平成十八（二〇〇六）年二月二十八日　発行

編集・発行者　大阪大学国語国文学会
〒560-8532　大阪府豊中市待兼山町一―五
大阪大学大学院文学研究科
日本文学・国語学研究室
代表　蜂矢真郷
振替口座〇〇九四〇―四―二四六四一
電話　〇六―六八五〇―五一一一

印刷　亜細亜印刷株式会社